AMDA 医師ら派遣 本格活動

台風被害のフィリピン支援

台風被害に見舞われたフィリピン中部レガスピ市周辺で、国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市楢津）の緊急医療支援が本格化している。二十一日までに日本人医師ら四人をはじめ近隣国支部から延べ四十一人を派遣。AMDAは「多くの人が今も避難所で暮らし、物資不足も深刻」と、今後も支援を続ける予定。

現地の政府災害調整委員会の発表によると、十四日現在で死者・行方不明者は千四百人を超え、負傷者は二千三百人以上、避難者約九万五千九百人。水の供給は復旧しつつあるが電気は不通で、避難所の小学校などでろうそくでの生活を強いられているという。

AMDAは医療支援を一日に開始。本部から館野和之調整員（四四）を派遣し、日本を含む四カ国の医師、看護師が周辺の村で巡回診療活動を継続。かぜや発熱などの患者が多く連日三百～千三百人を診察している。

AMDAは今後の支援に向け、医薬品購入などのための募金へ協力を呼び掛けている。郵便振替で口座番号01250-2-40709、口座名AMDAで、通信欄に「フィリピン台風」と記入する。（斎藤章一朗）

フィリピン台風の被災者に巡回診療など医療支援するAMDAのメンバー（AMDA提供）